

【別添】

2021 年度

戦略施策マネジメントシート

(2020 年度実績評価)

2021年度 戦略施策マネジメントシート【2020年度実績評価】 作成：2021年 6月 18日

施策番号 1-1	施策名 産業活性化プロジェクト	基本的方向	まちの優位性・独自性を活かし経済・産業が活性化するまちをつくる			
		基本目標	安定した産業と雇用を創出し、誰もが活躍できる社会づくり			
	主管課	農林課	課長名	我妻 修一	内線	242
	施策関係課	商工労政課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果	
基幹産業である「農業」の担い手の確保や町内外への農業の理解促進、農畜産物の販路拡大とブランド確立、農業生産性の向上の取組、商工業の活性化や企業誘致・企業支援により、経済・産業活性化を進め、稼ぐまちを実現する		雇用の場・就業者・起業者	・安定した産業と雇用を創出する ・誰もが活躍できる社会づくりを進める				人口減少に歯止めがかかり、住み慣れた地域で、安心して住み続けられる	
重要業績評価指標(KPI)	説明	単位	2019年度(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2024年度(目標)	
① 農業生産額	農業生産額(農業再生協議会)	億円	270	297			314	
② 製造品出荷額等	経済センサス(工業統計調査)	億円	848	756			900	
③ 工業団地企業数	実績数	社	279	313			284	
評価指標設定の考え方	①農業産出額を本施策の成果指標とし、過去最高の数値と同程度を目指すもの。 ②段階的に900億円を目指すもの。 ③新工業団地造成等に伴う新規立地企業を想定するもの。							

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	1,937,311		
人工数(業務量)	2,6230		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	・営農指導や、施設整備等農業経営基盤の安定化に向けた取り組みにより、農業生産額は堅調に推移 ・工業団地企業数は、既存団地内に新規立地及び新規事業立ち上げにより増加
②2024年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	・関係機関とした連携した営農指導等の取り組みの継続により、目標達成が期待できる。 ・現在の工業団地面積の約96%に企業が立地・活用しており、今後の新たな団地造成により目標達成が期待できる。

(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括

①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	農業担い手育成支援事業 企業誘致促進対策事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・自主的活動支援事業補助金により、様々な研修・研究が行われるよう、担い手への支援を実施した。 ・農業後継者のスムーズな就農を支援するため、JAめむろと連携し「新農業経営育成システム」について見直しを図りながら継続実施した。 ・食農教育は、新型コロナウイルス感染症の影響で一部のみの実施となり、メインである課外授業ができなかったが、2021年度の実施に向けて、教育委員会、指導農業士会、農業振興センターと協議を重ねた。 ・企業誘致促進対策事業において、立地企業に対し優遇措置を図り企業の存続化を図っている。 ・雇用・労働関係相談対応事業において、企業の労働力確保と町内での就職支援のため開設した芽室町ハローワークを運営し、企業と求職者とのマッチングが進んだ。また、雇用促進住宅の供給を開始し、短期的利用を中心に企業雇用労働力確保に資した。 ・芽室東工業団地造成事業にあっては、土地利用の調整が難航し新団地造成ができず企業誘致活動に影響を及ぼした。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した
- C: (総合戦略策定時と比較して)前進した
- D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手確保、経営の安定化に向けた取り組みが必要であり、JAめむろなど、関係機関と連携した検討を進める。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、事業の規模縮小や中止を余儀なくされるなど、産業全体に大きな影響があったが、アフターコロナを見据えた取り組みの検討が必要となっている。 ・芽室東工業団地は、多くの企業から取得ニーズがあり、新工業団地の造成は喫緊の課題となっている。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗対策など中心市街地の活性化 ・各産業における労働力確保対策 ・新たな工業団地の造成

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の受入れ体制構築の検討、農業への理解促進のための食農理解促進事業の実施。 ・アフターコロナを見据え、感染対策を講じた中で各種事業の実施を前提とした検討。 ・新工業団地の造成に向けた庁内連携、関係機関との協議の継続。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等により、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した 					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価			A	B	C	D	E
		進捗結果					
今後の取組に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した 					

施策番号 1-2	施策名 雇用促進プロジェクト	基本的方向	誰もが希望する働き方でいきいきと輝けるまちをつくる			
		基本目標	安定した産業と雇用を創出し、誰もが活躍できる社会づくり			
	主管課	商工労政課	課長名	仲野 裕司	内線	247
	施策関係課	健康福祉課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果
年齢や性別、障がいの有無に関わらず、誰もが希望する働き方を実現し、いきいきと輝いて暮らせる取組を進める		町民	<ul style="list-style-type: none"> 起業者や多様な働き方を実現する 町内企業の経営安定化と、障がい者の自立を進める 					<ul style="list-style-type: none"> 誰もが活躍できる社会になる 住み慣れた地域で安心して住み続けられる
重要業績評価指標(KPI)	説明	単位	2019年度(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2024年度(目標)	
① 町の支援により起業した人数	実績数(R2~R6累計)	人	3	2			10	
② 就労支援事業所から一般就労した方の人数	実績数(R2~R6累計)	人	8	0			12	
③								
評価指標設定の考え方	①起業を希望する方を対象にしたセミナーなどを通じて起業者を増やす。 ②誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の実現のため、障がい者の自立支援と社会参加の促進を目指し、第5期総合計画の成果指標と同様としている。							

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	6,254		
人工数(業務量)	0.0109		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	○女性向けの起業セミナー等を通じて起業につながっていることから、成果は向上していると言える。 ○就労支援を通じて、継続して事業所から一般就労している。
②2024年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	○継続して起業例があり、起業セミナーほか関連事業を通じて、今後も起業事例が増加すると思われる。 ○今後は、通勤サポートなど、企業と障がい者の雇用マッチング事業を推進していくことから、目標は達成できると考える。
(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	起業セミナー開催事業 障がい者雇用促進事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	○女性のための起業セミナーとして太田明子ビジネス工房代表の太田明子氏を講師に、年々ステップアップした内容とした起業に向けてのセミナー開催をし、令和2年度は17名の参加があった。(起業セミナーは平成27年度から実施しており、これまでに3名、R2年は町が関与する他事業を含め、2名が起業している。) ○障がい者を雇用する事業所への職域開拓・雇用ノウハウの指導等を総合的に行うとともに、就労を希望する障がい者等に対して、相談・育成・マッチング・就労定着支援を行い、障がい者雇用に関する企業側の基礎的データの収集、提供を行い、障がい者の雇用促進につなげるなど、企業支援を行った。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した
- C: (総合戦略策定時と比較して)前進した
- D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>○起業セミナーへの参加者は頭打ちの傾向があることから、新たなターゲットの検討も必要である。</p> <p>○企業の障がい者雇用に対するニーズは予想以上に高く、雇用までのプロセスや手法が明確でなかったことから障がい者雇用が進まなかった一面もあることから、障がい者雇用を希望する企業への戸別訪問を継続して行うなど、新たな一般就労先企業を掘り起こす。また、一般就労を果たした障がい者、雇用した企業へのフォローアップを行うなど、定着の支援を行う。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<p>○障がい者の自立促進</p> <p>○労働力不足対策の推進</p>

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<p>●起業セミナー開催 これまでのセミナーを継続するとともに、令和3年度からは講師と参加者のオンラインによる個別相談を実施し、具体的な起業に向けた支援を行う。</p> <p>●障がい者雇用 福祉的就労から一般就労した方の定着支援とフォローを強化するため、令和3年度から本事業を障がい福祉係に移管し、職域開拓については、業務を受託しているNPO法人と町障がい福祉担当と労政担当が連携し、企業訪問を行っている。また、障がい者の就労における課題である通勤については、その課題を解決する通勤サポート事業の令和4年度開始に向けて、企業のヒアリングを行っており、事業実施に向けた検討を進めている。</p>

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	<p>A: 実現した</p> <p>B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (総合戦略策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した</p> <p>E: (総合戦略策定時と比較して)後退した</p>				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価		A	B	C	D	E
		進捗結果				
今後の取組に対する意見		<p>A: 実現した</p> <p>B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (総合戦略策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した</p> <p>E: (総合戦略策定時と比較して)後退した</p>				

2021年度 戦略施策マネジメントシート【2020年度実績評価】 作成: 2021年 6月 21日

施策番号 2-1	施策名 定住促進プロジェクト	基本的方向	住んでみたくなる、住み続けたい魅力あるまちをつくる			
		基本目標	新たな人の流れをつくる取組を推進			
	主管課	魅力創造課	課長名	西田昌樹	内線	231
	施策関係課	教育推進課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果	
町全体の人口構成バランスを考慮し、子育て世帯を対象とした住宅取得やUIJターン者に対する情報の提供、移住イベントへの出展など、移住や定住に関する取組を進める		子育て世帯・移住定住希望者・住宅所有者	・子育て世帯が暮らせる環境を整える ・都市部から新たな人の流れをつくる				急激な人口減少を食い止め、地域の持続を可能にし、住み慣れた地域で、安心して住み続けられる。	
重要業績評価指標(KPI)	説明	単位	2019年度(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2024年度(目標)	
①	子育て世帯の住宅取得に係る奨励制度活用件数	件	88	199			250	
②	芽室町に住み続けたいと思う町民の割合	%	95.8	92.9			95.0	
③								
評価指標設定の考え方	①子育て世帯が新築・購入した件数(5年間で250件) ②95.0%以上を目指す。							

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	41,189		
人工数(業務量)	0.5413		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①はRIに対して減少しているが、H30よりは多くなっている。近居奨励の終了と、宅地分譲エリアが満了となったことが要因と考える。 ②に関してはコロナ禍により地域全体の活動低下に伴って意識も低下したものと想定する
②2024年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①は今後も同水準のニーズはあるものとする。 ②に関しては、コロナ禍による多くの事業の停滞により、成果指標についてはこのままでは今後も下っていく傾向にあると思われる。そのため、新たな取り組みを実施し目標達成を目指す。
(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業		②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	子育て世帯の新築等に関しては、目標値に近い実績となった。空き地空き家情報の提供はしているものの、UIJ者からのニーズが多い郊外地など物件数は少なく、移住につなげるのが難しい状況である。コロナ禍にあっても、UIJ、移住希望者に対する新たな積極的な情報提供、情報発信はコロナ禍においても新たな手段で確実に実施することができた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
				○	

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した
- C: (総合戦略策定時と比較して)前進した
- D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 高齢・人口減少が進む中、まちづくりの担い手も減少し、持続可能な住民自治のまちづくりは新たな担い手づくりが求められている。</p> <p>《今後の予測》 コロナ禍の影響で一極集中から地方への人の流れが起きている。国としても地方への人の流れを後押しする施策を、今後しばらくの間は継続して打ち出されることが予想される。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	特になし

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<p>国が急速に進めている一極集中の是正策を常時把握し、地域ブランディング・テレワークの推進・観光や物産の強化策など、関係人口・交流人口の創出、移住定住といった人の流れを起こす事業を複合・連携して実施していく必要がある。</p> <p>移住定住のための仕事と宅地・住宅情報は軸となる両輪であることから、宅地・住宅情報の強化が必要である。</p>
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標①に基づき、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	<p>A: 実現した</p> <p>B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (総合戦略策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した</p> <p>E: (総合戦略策定時と比較して)後退した</p>					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価			A	B	C	D	E
		進捗結果					
今後の取組に対する意見		<p>A: 実現した</p> <p>B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (総合戦略策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した</p> <p>E: (総合戦略策定時と比較して)後退した</p>					

施策番号 2-2	施策名 関係人口創出プロジェクト	基本的方向	多様な形で地域に関わりまちづくりに参加する関係をつくる			
		基本目標	新たな人の流れをつくる取組を推進			
	主管課	魅力創造課	課長名	西田昌樹	内線	231
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針	対象	意図				結果	
人口が減っても地域の活力を維持するために、住民がふるさとや地域に愛着や誇りを持ち、地域活動に関わるとともに、多様な形でまちづくりに関わる関係人口の創出に向けた取組を進める	すべての町民、芽室町に関心のある町外の人・企業	<ul style="list-style-type: none"> ・芽室町の魅力を発信し、認知度を上げる ・芽室町を調べてもらい、来てもらう ・町外の芽室ファンとともに芽室のまちづくりを進めていく 				芽室町民とともに芽室町に関心のある人・企業がともなって地域課題を解決し、持続可能な地域となる。	
重要業績評価指標(KPI)	説明	単位	2019年度(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2024年度(目標)
① 芽室町が好きな町民の割合	住民意識調査	%	98.6	92.0			95.0
② ふるさと納税の寄附件数	実績数(累計)	件	7,023	8,378			8,000
③							
評価指標設定の考え方	①95.0%以上を目指す。 ②8,000件以上を目指す。						

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	60,564		
人工数(業務量)	2,2948		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①コロナ禍により町内における全般の活動低下に伴って意識も低下したものと想定する ②はコロナ禍による巣ごもり需要によるものと想定する
②2024年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①コロナ禍においてまた新生活様式のもと、新たな取り組みを行うことで目的達成することが可能である ②現状分析と目標の設定、課題と解決方法を明確にし、しっかりとしたプランを立てることで現状よりも寄附件数、寄附額の向上は見込める
(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	ふるさと納税特典贈呈事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	シティプロモーション推進事業は、基礎調査を経た実証などで、芽室町としての今後に向けた基礎を固めることができた。 ふるさと納税は、コロナ禍における巣ごもり需要に乗り寄附件数、寄附額を増やした。しかしながら一人当たり単価が減っていることから寄附額が寄附者数と比例した伸びにはならなかった。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した
- C: (総合戦略策定時と比較して)前進した
- D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 コロナ禍において、従前の手法による事業・活動ができないことから、事業の前進が少なく、停滞の感がある</p> <p>《今後の予測》 コロナ禍の影響で一極集中から地方への人の流れが起きている。国としても地方への人の流れを後押しする施策を、今後しばらくの間は継続して打ち出されることが予想される。また巣ごもり需要によるふるさと納税需要の拡大傾向も予想される。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<p>シティプロモーションの推進で、どのような成果を目指すのか</p> <p>ふるさと納税返礼品を町民の声を聞いて商品開発してみてもどうか</p>

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<p>シティプロモーションは、町内の魅力を見つけ、磨き、それを効果的に発信し、地域ブランディング・テレワークの推進・観光や物産の強化策など、関係人口・交流人口の創出、移住定住といった人の流れを起す事業を複合・連携して実施していく必要がある。</p> <p>ふるさと納税は、現状分析と目標の設定、課題と解決方法を明確にし、効果的な情報発信、返礼品の新規開発と出品数の増、出品事業者との関係構築などを進め、寄附数、寄附額をさらに高めていく必要がある。</p>

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価		A	B	C	D	E
		進捗結果				
今後の取組に対する意見		A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した				

2021年度 戦略施策マネジメントシート【2020年度実績評価】 作成: 2021年 6月 21日

施策番号 3-1	施策名 安心子育てプロジェクト	基本的方向	誰もがいきいきと安心して暮らせる地域をつくる			
		基本目標	安心して子育てできるまちづくり			
	主管課	子育て支援課	課長名	杉山 ゆかり	内線	168
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果
妊娠・出産、子育てに関する悩み・不安の解消を図り、安心して子育てできる環境づくりを進める。また、経済的理由などにより、子どもを産み育てることを断念することのないよう支援の充実に努める		子ども	出生率向上のため、阻害要因を取り除く取り組みを進める					若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
重要業績評価指標(KPI)	説明	単位	2019年度(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2024年度(目標)	
① 安心して子育てができる環境であると思う町民の割合	住民意識調査	%	96.5	89.0			90.0	
② 不妊治療費助成件数	実績数(累計)	件	15	14			15	
③ 保育所待機児童数	実績数	人	0	0			0	
評価指標設定の考え方	①は、町民を対象とした住民意識調査の結果を成果指標として設定 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更) ②は、妊娠・出産を望む者に、不妊治療費を助成した件数を成果指標に設定 ③は、保育所待機児童ゼロを継続するため、成果指標に設定							

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	758,697		
人工数(業務量)	3,5069		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①前年度より上昇 成果指標②前年度より△1件 成果指標③保育所待機児童ゼロの継続 →子育て世帯の経済負担の軽減策、保育施設の充実が要因
②2024年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	妊娠・出産から子育てまで、きめ細やかな相談体制の充実を図っている。 子育て世帯の経済負担の軽減策を継続する必要がある。 現状の保育施設の事業運営を持続することで、待機児童ゼロは維持できる。
(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	妊婦相談・支援事業 子育て世代包括支援センター運営事業 保育事業 子どもセンター運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・少子化が進行する中で、妊娠期から子育て期まで、保護者に寄り添ったきめ細かい相談体制の強化と、必要な支援を受けられることができる支援体制の充実を図った。 ・保護者が安心して育児と就労の両立を支援できるように、保育施設及び子どもセンター等、保育環境の充実に努め、待機児童ゼロを継続した。 ・国や道の助成制度(幼児教育無償化、医療費助成等)に町独自支援策をプラスし、子育て世帯の経済負担の軽減を図った。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した
- C: (総合戦略策定時と比較して)前進した
- D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<<施策を取り巻く状況>> ・少子化や核家族化の進行により、養育に悩みを抱える保護者への支援。 ・保護者の育児と就労の両立のため、保育施設や子どもセンター等を利用する児童の増加。 <<今後の予測>> ・妊娠期からの相談体制の充実と子育て世帯の経済負担軽減の検証。 ・保育を必要とする保護者の多様なニーズへの対応。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・保護者アンケートで、子育て世帯の経済負担軽減や、町内での病児保育実施を求める要望がある。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

●子育て支援相談体制の強化	妊娠期から子育て期まで、子育ての悩みや不安を解消する相談体制を強化し、産前産後相談室や子育て支援センターの充実を図る。
●保育事業の充実	保護者の育児と就労の支援ができるよう、保護者ニーズを確認・検証し、安定した保育の提供を行う。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標からの判断は難しいが、子育て施策については毎年度取り組みを強化しており、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価			A	B	C	D	E
		進捗結果					
今後の取組に対する意見		A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した					

2021年度 戦略施策マネジメントシート【2020年度実績評価】 作成：2021年 6月 18日

施策番号 4-1	施策名 安心生活プロジェクト	基本的方向	誰もが健康で自分らしく笑顔で安心して暮らせるまちをつくる		
		基本目標	ひとが集い、誰もが安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり		
	主管課	政策推進課	課長名	石田 哲	内線 225
	施策関係課	高齢者支援課・健康福祉課・総務課・環境土木課・魅力創造課			

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
性別、年齢、障がいの有無に関わらず、誰もが健康で個性と能力を十分に発揮でき、安心して暮らせるよう、保健・医療・福祉の充実や防災・交通安全等の安全・安心の確保、住民同士が地域で自立した生活を続けるためのコミュニティづくり、安定した行政サービスを提供するための公共施設等の管理などを進める。また、広域的な連携によりサービスの向上や新たなサービスの向上や新たなサービスの提供を目指す		地域住民	・住み慣れた地域で安心して暮らせるようにする。 ・住民同士が支えあう体制ができている。				人口減少を最低限に留め、住み慣れた地域で安心して住み続けられる。
重要業績評価指標 (KPI)	説明	単位	2019年度(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2024年度(目標)
① 高齢者にとって暮らしやすいまちだと思う町民の割合	住民意識調査	%	77.5	72.3			81.8
② 住んでいる地域は、住民同士支え合う体制ができていると思う町民の割合	住民意識調査	%	57.1	58.1			80.0
③ 地域の活動に参加している町民の割合	住民意識調査	%	45.7	40.0			55.0
評価指標設定の考え方	①～③総合計画後期実施計画の目標と同じ目標を設定。段階的に引上げを目指すもの。						

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	283,772		
人工数(業務量)	3,3431		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	②については、設問の見直しによるところが大きい。しかし、新型コロナウイルスの影響などにより、全体的に成果は低下した。
②2024年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	コロナ禍に対応した新たな事業を実施する必要がある。
(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	障がい者就労支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
	地域防災対策事業		
	地域公共交通確保対策事業		
③事務事業全体の振り返り(総括)	・13人の障がい者を、会計年度任用職員として採用し、職場実習や就労機会を提供している。 ・災害備蓄品の効率的な保管等を目的に、「防災拠点備蓄倉庫」を整備した。 ・農村部の高齢者の移動手段の確保を目的として、タクシー運賃の助成を開始した。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
				○	

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した
- C: (総合戦略策定時と比較して)前進した
- D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》 ・就労継続支援A型事業所の事業拡大や一般就労定着支援により一般就労への移行が促進している。 ・人口減少が進むなかで、住民自治の重要性はますます高くなっているが、地域活動や集団活動を好まない人たちも増えている。 ・自助・共助・公助を基本とした、住民の生命と財産を守るための地域実情に適した防災体制の整備と確立が、喫緊かつ重要な課題となっている。 《今後の予測》 ・労働力不足が深刻な中で、企業側の障がい者雇用に対するニーズも増加が見込まれる。 ・コロナ禍をきっかけに集団活動を避け、個人活動を好む傾向が強まることが想定される。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・障がい者の通勤手段を確保してほしいとの声がある。 ・町内会未加入者対策を強化すべきとの意見がある。 ・議会から、高齢者だけではなく、学生の交通手段についても検討すべきとの意見がある。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

・障がい者の通勤サポート事業について、令和3年度から実施する。 ・町内会の活性化のため、事務所機能等への支援を検討する。 ・MaaSを活用した新たな交通手段について、検討を進める。
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、変わらないと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果				○
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価		A	B	C	D	E
		進捗結果				
今後の取組に対する意見		A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した				

2021年度 戦略施策マネジメントシート【2020年度実績評価】 作成：2021年 6月 22日

施策番号 4-2	施策名 輝くまちづくりプロジェクト	基本的方向	地域資源を活用しひとが育ち・集う魅力的なまちをつくる			
		基本目標	ひとが集い、誰もが安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり			
	主管課	生涯学習課	課長名	日下勝祐	内線	451
	施策関係課	教育推進課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果	
人々の創造性や感性を育み心豊かに暮らすための文化振興や健康増進や皆スポーツを目指したスポーツしやすい環境づくりを進めるとともに、これらの地域資源を活用した人材育成を進める		町民 町民で他市町村に通う生徒	学びの基礎づくり 生涯を通じての生きがいづくり 共助社会の絆づくり				生涯にわたり、「いつでも」「どこでも」「だれでも」が学び、心豊かで輝く人を育む地域づくり	
重要業績評価指標(KPI)	説明	単位	2019年度(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2024年度(目標)	
① ジモト大学への参加者数	実績数(年間)	人	0	4.0			10.0	
② 文化活動がしやすいと感じる町民の割合	住民意識調査	%	42.2	77.4			45.0	
③ スポーツしやすい環境であると思う町民の割合	住民意識調査	%	92.2	83.8			95.0	
評価指標設定の考え方	①ジモト大学への参加者数10人を目指す。 ②前期計画で得られなかった評価(45%超)を目標値としたもの。 ③住民満足度として非常に高い評価を得る数値とするもの。							

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	826,936		
人工数(業務量)	3,9954		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①コロナ禍において、プレ事業が実施できなかったことによる。 ②③も多く、事業が縮小又は中止を余儀なくされたが、CSでの地域活動やスポーツでの民間企業等との協定事業など一定の評価を得たものと解す。
②2024年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	ジモト大学事業はR3から事業着手し、多数の生徒に参加いただく事業を推進。 CS事業においても、児童生徒及び地域のボランティアの積極的な参加が見込まれる。 文化・スポーツの推進については、引き続き企業や団体などと連携した事業により参加しやすい環境づくりや人材育成に寄与する事業に取り組むことで達成可能。
(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	少年教育活動運営事業 スポーツ人材強化・育成支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	ジモト大学事業(新規R3実施)のプレ事業を予定していたが、コロナ禍で未実施。しかしながら、R3実施に向けて高校生と意見交換の場を設定しR3事業への準備と位置付けた。 CS事業については、学校支援ボランティアの活動により人材育成や地域コミュニティの活性化が図られた。 文化・スポーツ振興ではコロナ禍で事業の縮小・中止が余儀なくされた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した
- C: (総合戦略策定時と比較して)前進した
- D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・ジモト大学事業の実施 人材育成事業として、探求心の育成、郷土愛の醸成などをはかる。 ・CS事業 郷育・夢育の取組として地域コミュニティの活性化につなげる ・文化、スポーツ振興 若者から高齢者まで、取り組みやすい環境(ソフト・ハード)を整備する
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ジモト大学、CS事業 地域で活躍する大人の協力 ・文化、スポーツ振興 社会体育施設の計画的な整備 児童生徒へのクリニックの実施 ゲートボールの普及振興

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・ジモト大学、CS事業 →チームスタッフ(生徒)による事業企画により取組みを開始 →企画、実践、結果検証、発表までの体験を実施 →学校支援ボランティア活動を全町的な活動へ拡大 →実践事例の共有、交流機会の確保 ・文化、スポーツ振興 →「一流を見て、聴いて、学ぶ」機会の確保 →本町発祥のゲートボール普及事業の重点的な実施

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した 					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価			A	B	C	D	E
		進捗結果					
今後の取組に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した 					

2021年度 戦略施策マネジメントシート【2020年度実績評価】 作成：2021年 6月 21日

施策番号 4-3	施策名 観光振興プロジェクト	基本的方向	まちの観光拠点である新嵐山を活用し個性を活かした観光地域をつくる			
		基本目標	ひとが集い、誰もが安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり			
	主管課	魅力創造課	課長名	西田昌樹	内線	231
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果	
豊かな自然や地域のおもてなしを通じて、「芽室町の個性を体感できる場」をつくるとともに、地域資源を活用した観光まちづくりを推進し、まちのブランド力の戦略的な活用を図りながら、観光誘客を促進する		町民、観光客	・利用者数の増加 ・観光消費や物産購入につなげる				観光客の増による地域内経済の活性化及び魅力ある地域内資源の再発見による郷土愛の醸成	
重要業績評価指標(KPI)	説明	単位	2019年度(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2024年度(目標)	
① 新嵐山スカイパーク利用者数	実績数(年間)	人	488,100	281,257			513,000	
②								
③								
評価指標設定の考え方	年1%増加を目標とし、30年度から34年度までの5年間につき5%増で設定							

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	111,026		
人工数(業務量)	0.5176		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	コロナ禍における移動自粛、施設の一部閉鎖等による影響と想定される。
②2024年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	観光振興にとって、現況下での移動自粛、制限は最も大きなマイナス要因となり、今後の新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、急激な回復は見込めない。 しかしながら、来るべき回復状況を見込み、その時の素地となるべき対応準備を怠らず、遂行することで大幅なマイナスは回避できるものとする。 そのために芽室町観光物産協会との連携、新嵐山のリニューアルの動きへの対応などと連動しながら観光資源と特産品の魅力を発信していく。
(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業		②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	新嵐山スカイパーク運営支援事業
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「新嵐山スカイパーク運営支援事業」→新プランに基づく改革を断行したことにより管内をはじめとする新規利用者層を呼び込むことができたが、それを上回るコロナによる影響が大きく響き、人の流れの制限などにより、特に海外、道外、管外からの旅行・観光客が激減し、それに伴って利用者数が激減した。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
					○

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した
- C: (総合戦略策定時と比較して)前進した
- D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	≪施策を取り巻く状況≫ ・新型コロナウイルス感染症で、短期的にはこの行く先により成果の成否が左右される。 ≪今後の予測≫ ・人を呼び込めない現状であるが状況回復を想定した準備、回復後にスタートダッシュできる状況づくりが必要である。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・新嵐山スカイパーク改革に関する関係機関、関係者への説明の徹底

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

・新嵐山活用計画に基づいた施設整備、管理運営を進め、スカイパーク一帯の資源を活用した新しい魅力づくりに取り組み集客を図る。 ・SNSを活用した「魅力発信」や「特産品購入への誘導」を実施し、観光物産協会との連携、新嵐山のリニューアルの動きへの対応などと連動しながら観光資源と特産品の魅力を発信していく。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標はコロナ禍により減少しているが、その中でも新嵐山スカイパークに関する取組を進めており、総合的に考えて変わらないと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取組を進めてください。	A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価			A	B	C	D	E
		進捗結果					
今後の取組に対する意見		A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した					